

【場所・面積】東京都新宿区、1.56ha

【管理目的】

- 市谷の杜は、本社のある東京・市谷地区における再開発の一環で創出した有効空地であり、この場所ならではの自然に近い緑地の創出を目的とする。

【サイト概要】

- 地域固有の在来種のみからなる緑地で、武蔵野の雑木林をイメージした落葉広葉樹を中心に植栽し、常緑樹を織り交ぜた多様性あふれる自然の森である。

【サイト周辺の状況】

- 本緑地は東京都新宿区の都心に位置しており、周辺は住宅地域である。広域にみると、北に新宿御苑や皇居、南に小石川植物園などが位置しているが、新宿区内でも緑地の少ない地域である。

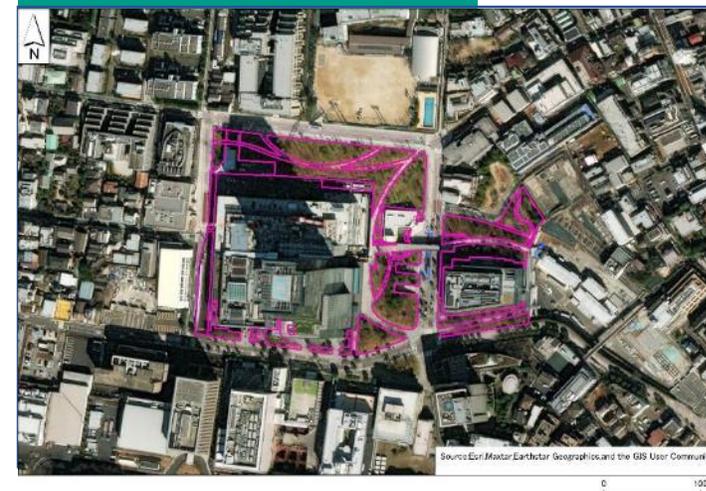
【土地利用の変遷】

- DNPは、当該地区で約135年にわたり、出版印刷を中心に幅広く事業を展開してきた。1990年代後半から、事業の方向性を検討するとともに、地区全体の街づくり計画として東京都および新宿区の都市計画に沿った検討を進め、2009年「市谷本村町・加賀町地区 都市計画」として、都市計画に決定された。これに伴い建物の建て替えを実施し、開発地区の人工地盤上に「都市における新しい森づくり」として、有効空地に緑地を創出した。

【活動のアピールポイント】

- 都市再開発として、モノづくりの機能を地下に置き、高層棟などを有効に活用することで、周辺住宅地と調和した大規模な緑地「市谷の杜」の創出計画を進めてきた。都会の中で四季を感じられること、地域に親しまれること、明るく安全であることを基本とし、この場所ならではの自然に近い緑地をめざした。武蔵野の雑木林をイメージし、植生はすべて地域固有の在来種からなる。また尾根部、谷部、斜面などそれぞれの地形に適した植生群を植栽した。一方、施設利用者や地域住民、安全性にも十分配慮し、植栽のゾーニングを行った。

区域全体図・写真①



区域全体図・写真②



【生物多様性の価値、管理内容およびモニタリングの概要(1/2)】

生物多様性の価値		生物多様性の価値の概況	管理内容	モニタリング概要
(4)	 <p>【自生したタラノキ】</p>	<p>武蔵野台地東縁に位置しており、当該地で気候的に成立しうる6つの森林性の植生から構成。高木・低木の植生に合わせて草本類を選定しており、四季折々の植物が確認できる。</p> <p>都心の緑地が少ないエリアに位置しており、自然景観の保全や近隣の方の散歩コースなど文化的サービスを提供。</p>	<p>有効空地に維持管理を目的に、監視カメラや警備巡視を実施。また年6回の植物点検、年2回、緑地担当者による日常的な観察などを実施している。</p>	<p>専門家に依頼する生物調査・植栽調査を行いながら、社員による観察に重点を置き、「気づき記録」として継続している。植物の生息状況や異常を日常的に観察し、記録として保管することで、日常管理に役立てている。</p>
(9)	 <p>【アオスジアゲハ】</p>	<p>敷地の周辺の環境や都市の成り立ちを調べ、周辺とした環境を創出することで、生態系ネットワークに配慮している。鳥類や昆虫など多様な生物が生息できる階層構造のある樹林で、植生に配慮した植物の組み合わせを行っている。敷地内での緑地の分断を少なくし、まとまりある樹林を形成として配慮している。緑地内の遊歩道は透水性に優れた土舗装としており、生物の移動を妨げないとともに、チョウ類の吸水の場としても貢献している。</p>	<p>有効空地に維持管理を目的に、監視カメラや警備巡視を実施。また年6回の植物点検、年2回、緑地担当者による日常的な観察などを実施している。</p>	<p>専門家に依頼する生物調査・植栽調査を行いながら、社員による観察に重点を置き、「気づき記録」として継続している。植物の生息状況や異常を日常的に観察し、記録として保管することで、日常管理に役立てている。</p>